



「^{げん}厳たる一人」と 君よ立て

壮年部結成
の月に寄せて

南仏・プロヴァンス地方の光と
緑の中に、白銀に輝く岩の塊が、
「俺はここにいるぞ」と、圧倒的
な存在感で迫ってくる。「不動」
でありながら、今にも火を噴きそ
うな勢いがあり、その姿は、風雪
に耐えて戦う男の、年輪と覚悟を

表しているかのようでもある。

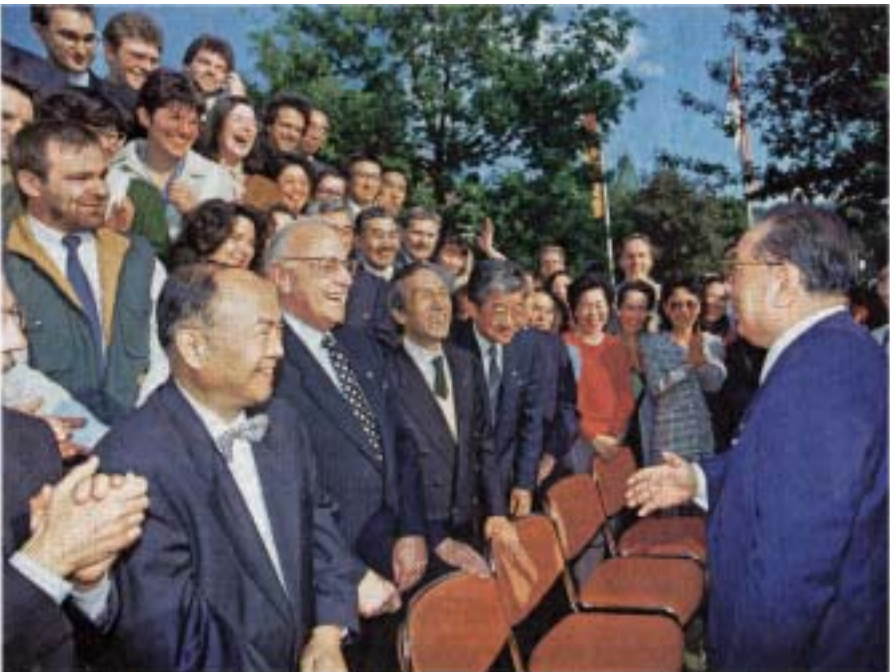
その名も「^{せい}聖なる勝利山」。画
家セザンヌも愛したサント・ヴィ
クトワール山である。1991年（平
成3年）6月、トレッツの欧州研
修道場を訪れていた池田名誉会長
が、カメラに収めた。

名誉会長は、この山に寄せて語
ってきた。「汝自身を「勝利の
山」へと鍛えよ」「自分の人生の
「勝利山」を登りきれ、——と。

3月は壮年部結成の月。勝利山
のごとき^{いとお}厳の信念、^{ほのお}炎の情熱で、
「勝利」を開いていきたい。

広宣流布の「広宣」とは、
「広く」「宣伝」する戦いといえる。
偉大なものを
偉大であると語り、広く伝える。
堂々と、声高らかに
正義を語り抜く。
これこそ、勝利の力だ。

敵を恐れさせ、
同志には安心を与える
「柱」の存在であっていただきたい。
その「厳たる一人」の頭上には、
「永遠の勝利の冠」が輝いていく。



統一後のドイツを訪れた池田名誉会長（1991年6月、フランクフルト郊外で）。友に感謝し、「勇敢なる草創の先輩方に、勇敢なる青年部の若鷲が陸続と続いていく」と。この後、ルクセンブルクなどを経てトレツツを訪問

仏法では、この現実の社会は
「娑婆世界」であると説いている。
「娑婆」とは「堪忍」、
すなわち「堪え忍ぶ」
という意義になる。
誰人たりとも、
押し寄せる苦難との戦いだ。
それを耐え抜き、
勝ち越えられるかどうか。
人生は「負けじ魂」の
勝負といってよい。

誰が偉いのか？
一番苦労して、一番真剣に
人生を生きた人が偉いのだ。
一番真面目に、誠実に、
そのわが道の人生を
生き抜いた人が、一番偉いのだ！
いかなる最高の思想を持っているか。
それが、
人間の究極の偉さを決定するのだ。

「進まざるは退転」ともいう。
つねに前へ、そして前へ――
それが「生きる」ということである。
私もは、いつも新鮮な心で、
「戦い」から「戦い」へ、
「勝利」から「勝利」へと、
偉大なる「王者の道」を
ともどもに歩みたい。